

# 令和4年度 地域活性化活動助成 活動概要

山陽小野田市有帆小学校

## 1 活動名 「有帆のホタル～ARIHOTARU～」

## 2 ねらい

- ホタルの生態と自然環境との関わりについて学習することを通して、有帆地区の豊かな自然を守り育てようとする地域の方々の思いを知り、地域の一員として自分たちにできることを考える。
- 地域の方と一緒に活動することを通して、ふるさと愛を深め、有帆を愛し誇りに思う心情を育むとともに、高齢者と子どもたちの間にある保護者を巻き込み、地域一体となった地域活性化の一助とする。

## 3 活動の概要

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| 4月  | 有帆地域でホタルを育てる意義を共有                  |
| 5月  | ホタルを育てる計画を立て、自分たちが地域に対してできることを共有   |
| 6月  | 地域の方とホタルを採取し、ホタル部会の方とホタル学習を実施      |
| 7月  | ホタルの飼育・ホタル日誌への記録（ホームページに「ホタル日誌」開設） |
| 8月  | ホタル部会の会員と3年生児童有志で保護者も巻き込みホタルの飼育・記録 |
| 9月  | ホタルを飼育しながら、ホタルの生態やホタルが育つ環境調べを開始    |
| 10月 | 飼育したホタルを「ホタル川」へ放流                  |
| 1月  | ホタルについて調べたことの発表準備                  |
| 2月  | 発表準備と並行してホタル小屋内のパネル作成・披露           |
| 3月  | ARIHOTARU 継承                       |

## 4 活動の内容

### (1) 有帆のホタル歴史

平成元年、「親子三代住める都市づくりをめざすふるさと創生事業」の一環として、ホタルの誕生から成虫までの過程を、自然に近い状態で観察・飼育できる施設を設置することになった。学校及び地域の人々に、ホタルを通して人が自然とふれあえる場として、本校にはホタル小屋、有帆地域交流センターには人工のホタル川が設置された。

当初は、有帆地区ふるさとづくり推進協議会のホタル部会を中心に、ホタルの飼育・放流、ホタル祭りの開催など、様々な活動が本校児童と共に行われていたが、近年は人口の減少や高齢化に伴い、活動が縮小されていた。



【ホタル小屋】

本校では一昨年度、有帆にホタルを飛ばしたいとの児童の思いから、3年生とホタル部会とが協力をして再度ホタルの飼育をするようになった。「有帆のホタルを広める」という思いを継承し、保護者も巻き込みながら学校・地域・保護者三位一体となって、地域活性化につなげることにした。

## (2) ホタル誕生までの準備

有帆地区では自然発生的にホタルが誕生する数が少ない。そこで、毎年ホタル部会の方が「種ホタル」を他の地域から採取し、その種ホタルから生まれた卵を6月後半からホタル小屋で飼育し始めた。

3年生の学年PTA活動にホタル部会の方を招待し、有帆のホタルの歴史や生態、飼育の仕方を、児童だけでなく保護者も教えていただいた。



【ホタル講話】

## (3) ホタルの幼虫の飼育

7月から月水金の週3日、3年生児童グループがホタル部会の方と一緒に昼休みに幼虫のお世話を始めた。水はホタル小屋横にあるろ過装置でろ過したきれいな水を使用し、水温を24℃以下に保つため、ホタル小屋はエアコンをかけっぱなしにしている。

幼虫を移動させながら、飼育箱の水換えをし、餌になるカワニナを金槌を使ってつぶし、幼虫に与え、日にちが経った餌は取り除く。3年生児童は、一匹の命も粗末にならない



【ホタルの幼虫飼育】

ように気をつけながら幼虫の飼育に取り組んだ。ホタルのお世話をする時に気温や水温も記録し、その日の気づきを日誌に記録した。また、それを学校のホームページにも「ARIHOTARU 日誌」として載せた。

## (4) ホタルの放流

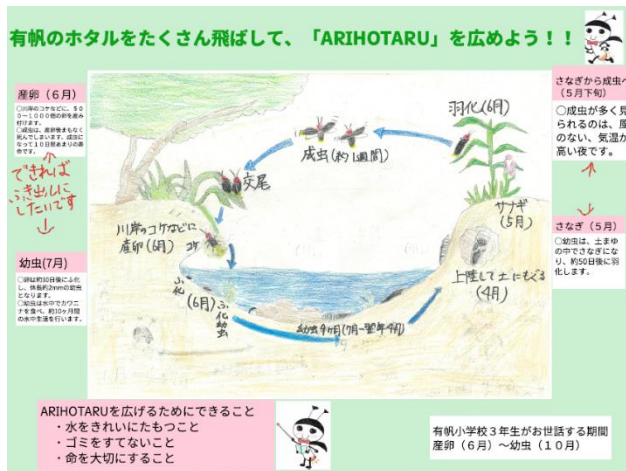
6月後半、卵から飼育し始めたホタルであったが、夏休みも3年生児童有志で、時に保護者も交えながら交代でホタルのお世話をした。10月までホタル小屋でお世話したホタルを、10月後半に有帆地域交流センターにあるホタル川に放流した。6月に孵化した幼虫は約3000匹で、放流したホタルは600匹であった。来年ARIHOTARUがきれいに飛び回り、有帆地域がホタルと共に発展していくことを願って「ARIHOTARU ありがとう集会」を開いた。



【ホタルの幼虫放流】

### (5) 子どもたちの調べ学習

3年生児童が、月、水、金の昼休みに「ARIHOTARU 日誌」に、ホタルの成長の様子を記録していった。記録した内容をタブレット型 PC で入力し、ホームページにも載せた。また、総合的な学習の時間には、ホタルの一生や生態、育ちやすい環境などについてまとめ、2月の参観日に保護者や地域の人に向けて発表した。まとめた内容は、資料としてホタル小屋に保管していく。他にも、ホタルの一生をパネル（120×190cm）にプリントして、ホタル小屋に展示したり、ホタル小屋に来た人がリラックスして座ってホタルについて学べるように、有帆地域で採れる竹を使ってベンチを作ったりした。



【児童が作成したパネル(案)】

1. エアポンプ ( よい ・ わるい )
2. カワニナ ( **あたたか** ・ あたえない )
3. カワニナ ( **ある** ・ 少しある ・ ない )
4. 水かえ ( **した** ・ しない )
5. エアコンの調子 ( よい ・ わるい )
6. ハエ・くも・ヒル・ムカデ ( いた **2** 匹 いない )

気づき  
ホタルの脱皮した川がいっぱいあった。自分たちがお世話しているのは、一箱だけど、地域の方は14箱もお世話をしてくださっている。地域の方は大変だなと思って、わたしたちもお手伝いをしたいと思った。

【ARIHOTARU 日誌】

## 5 成果と今後の課題

### 成果

- ホタル学習を3年生の総合的な学習の時間に位置づけ、学年PTA活動でも親子で学べる機会にした。児童の「ホタルを育て、ホタルについて学びたい」という思いが保護者を動かし、保護者もホタルに関わることができた。また、保護者もホタル部会の方とつながることができ、高齢者が多いホタル部会の若返りにも期待がもてる。児童がホタルについて学ぶことを通して、保護者を巻き込むきっかけとし、地域の活性化につながっていくことを期待している。
- ホタルを育て、ホタルについて学びたいという児童の思いは、学習に対する意欲の向上につながった。ホームページなどで発信することで、自分たちの学習の成果が目に見えて分かる。周りからも評価される機会が増え、児童の自己有用感を育むものになった。

### 課題

- ホタル学習を継続させていくことが課題である。継続してホタル学習をしていくためにも学校・地域連携カリキュラムに位置付け、学校、地域、保護者が三位一体となって取り組むことで、地域活性化に貢献していきたい。